

2012/2/16

## 柏の景気情報（平成24年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年1月分）

○ 調査期間 : 平成24年1月23日 ~ 1月27日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	114	66.7%
建設	47	29	61.7%
製造	36	24	66.7%
卸・小売	49	36	73.5%
サービス	39	25	64.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年1月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIわずかに回復 放射能への懸念は依然大きく ▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.9(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.3(同▲28.0)、製造業▲16.6(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲25.0)、卸小売業▲44.4(同▲37.5)である。

【建設業】からは、「ここ数年の採算割れに近い発注単価の影響が同業者の廃業等が増加。発受注量を取り立てて多いわけではないのに毎日のようにあちこちから応援要請がくるという異常な状態が続いています」(石工れんがタイルブロック工事業)、「公共工事・年度末に向けて多少増加があるも、採算厳しい」(土木工事業)、「年明けから一般客の畳工事の注文が激減しているので業績悪化が深刻。既存のお客様へおアプローチをして畳工事の需要を掘り起こしたい」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「景気が改善しない。好転へのきざしが見えない」(その他の機械・同部品製造業)、「年度末にむけ仕事が出てきた。各社取引先全てが動いてきている」(建築用・建設用金属製品製造業)、「1月度は作年並、2月から材料費値上げが有り利益圧迫しそう。原料は輸入されている物が多いが円高の差益は全く還元されていない」(紙製容器製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「年末から年明けでケーキやおせち、お歳暮など好調でした。一方1月初商売上はほぼ例年並みでスタートし、天候雪の影響などもあり、予算前年ともに下回って推移しています」(百貨店)、「景気が悪化しているから地域の商業ももろに影響を受けている。国の景気が良くなることを第一に望んでいる」(食肉小売業)、「年度末は仕事量が増加するのが通念であったが、今年は何かが少なく競争が激化し価格の下落につながった」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「飲食店では中心的な材料が高騰しているがなかなか売値に転嫁できず苦慮している。メディア等で取り上げて頂きお客様への認知を頂きたい」(食堂・レストラン)、「近隣に大型スーパーが今春オープン。競争激化。取扱商品は競合しないが客の流れが心配です。雪と寒さの関係で来店客数減少。明るいニュースが無いので財布のひもも固い。月末になり新学期用品は好調です」(その他の飲食料品小売業)、「この景況で進むとIT企業は、倒産の危機を迎える企業が増えると思います。まずは、大手企業設備投資の縮小・人工単価の低額化・新規開発事業外国人投入(TPP導入により関税非課税)など、ますます悪化するばかり、目標を来年度に向けてどころが、明日に向けてに切り替えなくてはならない状態です。すき間事業を常に検討してます」(ソフトウェア業)などの声が寄せられた。

◎放射能の影響

各業種から、「放射能の影響で集合住宅の空きが目だつ。また柏での戸建て新築集合住宅建築も減っている。反面都内での建設は増加しており、都内の現場が多い当社は売り上げの増加となっているが材料値上げにより仕入高が上昇したため、業況的には苦しい年となりそう」(その他の職別工事業)、「ホットスポットなどで不動産の動きが悪い。除染作業が始まれば仕事が増えるかも」(土木工事業)、「連日小さな地震や目に見えない放射能に翻弄される日々を送っています。震災以降柏から8000人以上の若者たちが引っ越していったと耳にしています。除染に予算を取られてしまう柏市も新しい開発はほとんど中断されているので、景気の回復も長い時間がかかるような気がします」(印刷業)、「放射能汚染に対する風評被害がお客様の購入意欲を低くしています。若い方に特に影響しています。土地の価格も低下しています。早く安全宣言を国県市で出してもらいたい」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不透明

各業種から、「受注量やや増加傾向にあり、生産設備投資を行う計画であるが先行きへの不透明感があり不安は持っている」(一般産業用機械・装置製造業)、「先行きの見通しが見えない状態が続いています」(その他の機械・同部品製造業)、「先行きの不透明感拭えないが、期待値を込めて今年は明るくしたい。(現実には厳しいかもしれない)」(ガラス・同製品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎電気料値上げ

各業種から、「東京電力による電気料金値上げ発表で、4月より大幅なコスト増が見込まれ諸施策を実施しても大変に厳しい状況が予想される」(織物業)、「消費低迷に売上が伸び悩む中、原材料や電気料金の値上げ等が今後重くのしかかってきそうです」(菓子・パン小売業)、「宴会部門において新年会は昨対で件数は増えるも件当たり人数も小さく厳しい状況が続くと思われる。電気、重油の値上げが心配である」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
見通し	▲22.8	▲10.3	▲4.1	▲30.5	▲44.0

見通しは今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.9(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

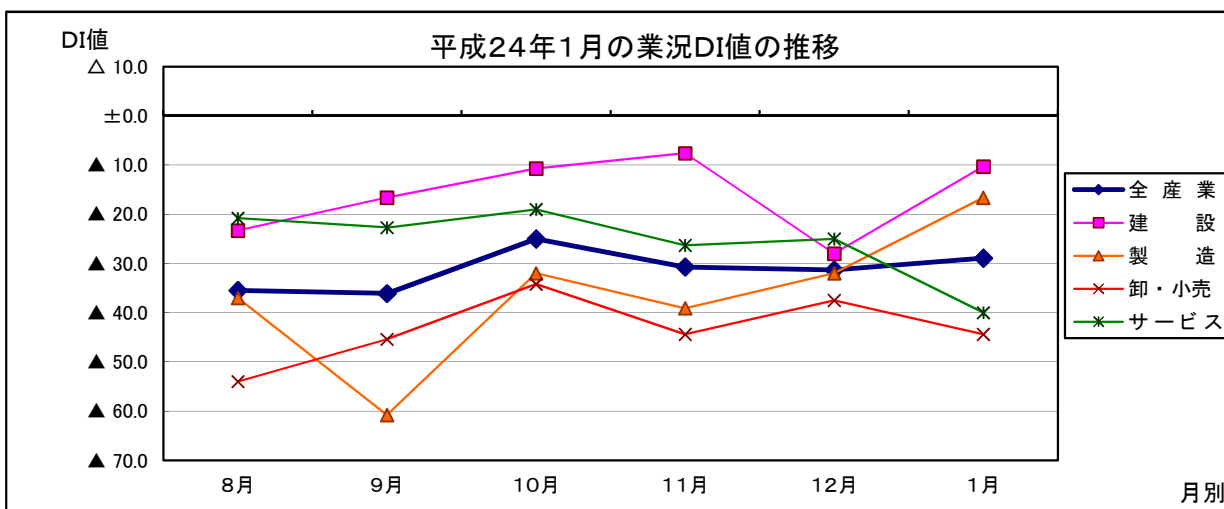
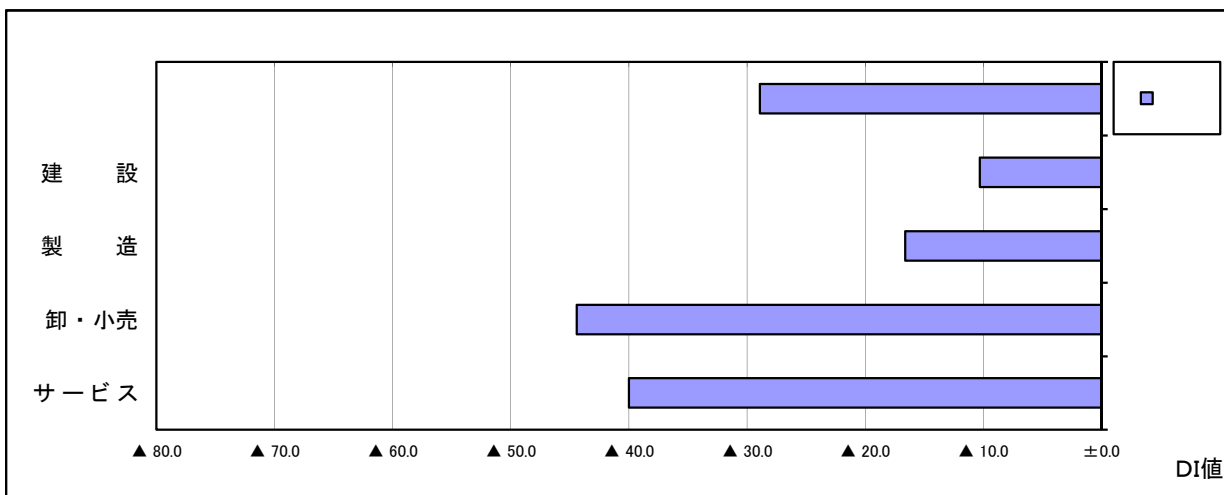
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.3(同▲28.0)、製造業▲16.6(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲25.0)、卸小売業▲44.4(同▲37.5)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.8(前月水準▲26.4)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲4.1(同▲16.0)、卸小売業▲30.5(同▲40.6)、建設業▲10.3(同▲12.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲44.0(同▲35.0)である。

平成24年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲35.5	▲36.1	▲25.0	▲30.7	▲31.3	▲28.9	▲22.8(▲26.4)
建設	▲23.3	▲16.6	▲10.7	▲7.6	▲28.0	▲10.3	▲10.3(▲12.0)
製造	▲37.0	▲60.8	▲32.0	▲39.1	▲32.0	▲16.6	▲4.1(▲16.0)
卸・小売	▲54.0	▲45.4	▲34.2	▲44.4	▲37.5	▲44.4	▲30.5(▲40.6)
サービス	▲20.8	▲22.7	▲19.0	▲26.3	▲25.0	▲40.0	▲44.0(▲35.0)



【平成24年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27. 1(前月水準▲12. 7)となり、マイナス幅が▲14. 4ポイント拡大した。

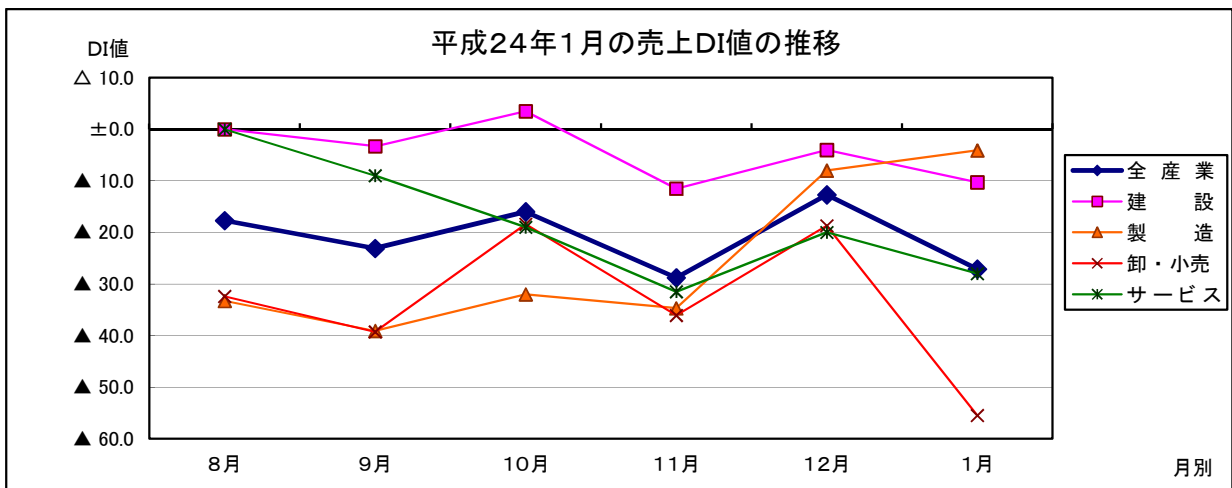
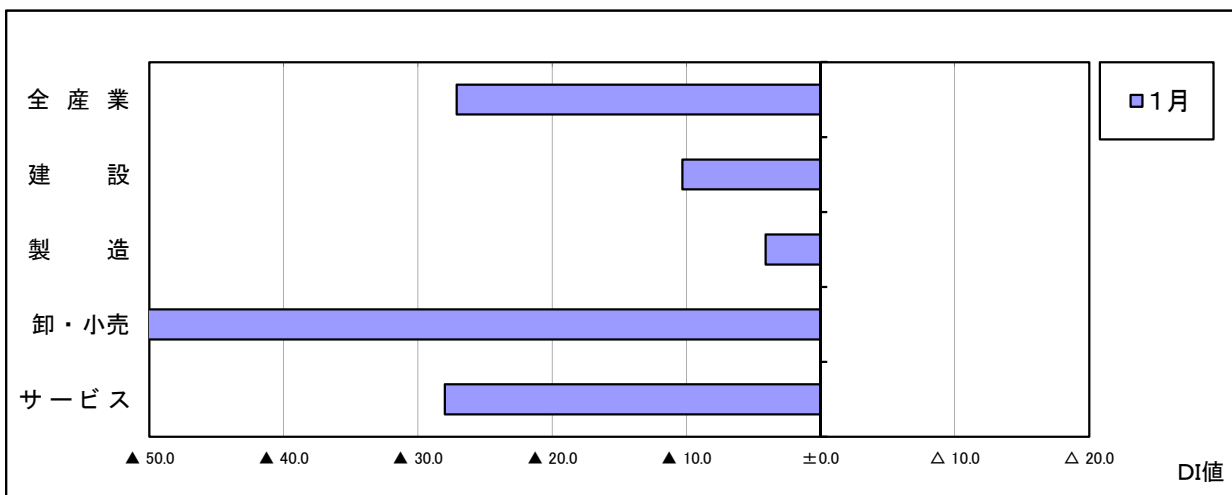
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲4. 1(同▲8. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55. 5(同▲18. 7)、サービス業▲28. 0(同▲20. 0)、建設業▲10. 3(同▲4. 0)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲36. 8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9. 6(前月水準▲16. 6)となり、マイナス幅が7. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業3. 4(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲5. 5(同▲28. 1)、製造業±0. 0(同▲12. 0)である。特に、卸小売業はマイナス幅が22. 6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲40. 0(同▲25. 0)である。

平成24年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲17.7	▲23.1	▲16.0	▲28.8	▲12.7	▲27.1	▲9.6(▲16.6)
建設	±0.0	▲3.3	△3.5	▲11.5	▲4.0	▲10.3	△3.4(±0.0)
製造	▲33.3	▲39.1	▲32.0	▲34.7	▲8.0	▲4.1	±0.0(▲12.0)
卸・小売	▲32.4	▲39.3	▲18.4	▲36.1	▲18.7	▲55.5	▲5.5(▲28.1)
サービス	±0.0	▲9.0	▲19.0	▲31.5	▲20.0	▲28.0	▲40.0(▲25.0)



【平成24年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.4(前月水準▲30.3)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

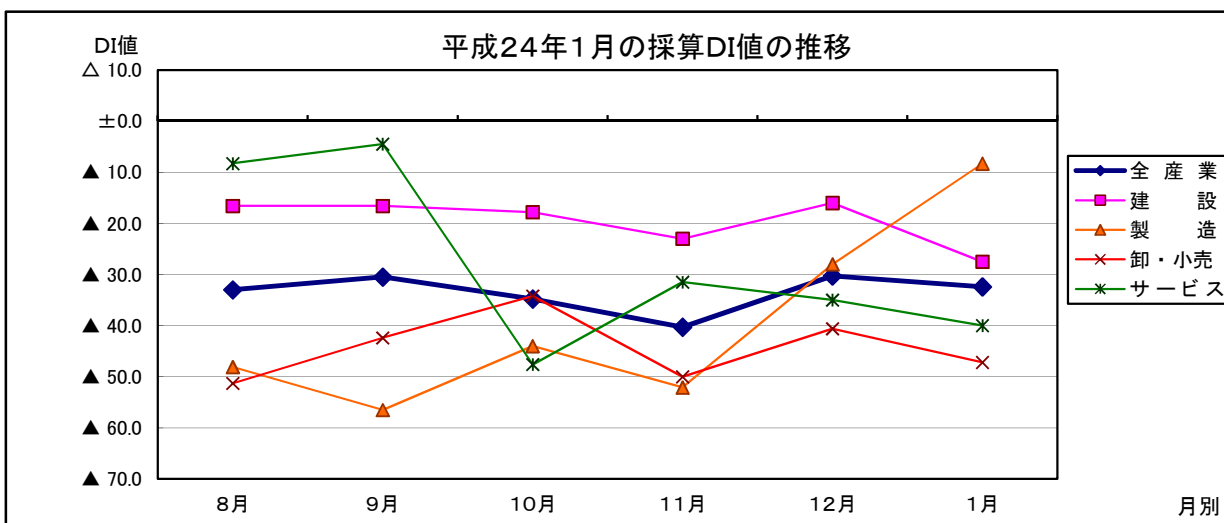
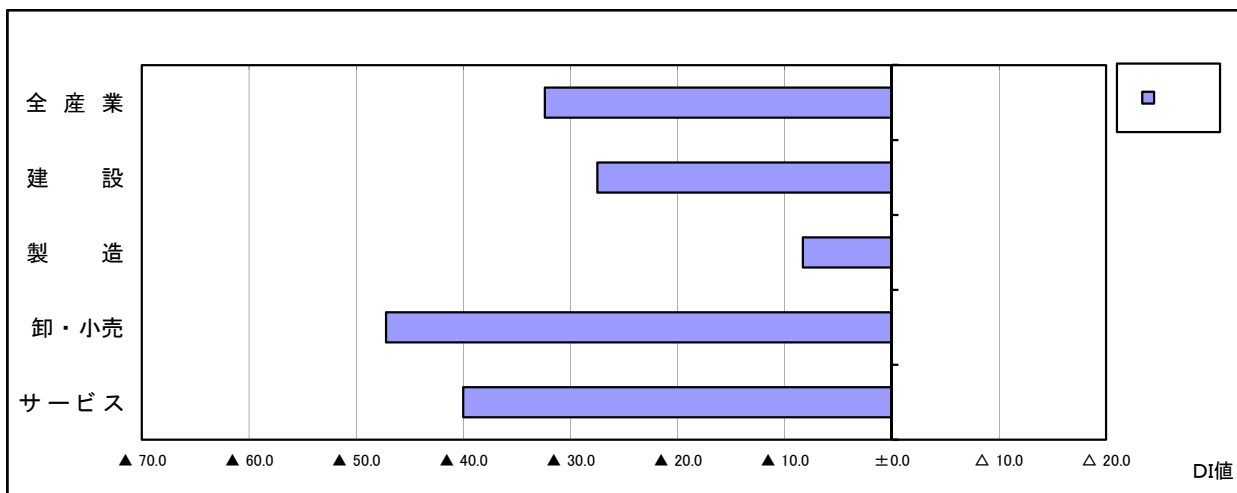
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲8.3(同▲28.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲27.5(同▲16.0)、卸小売業▲47.2(同▲40.6)、サービス業▲40.0(同▲35.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.0(前月水準▲28.4)となり、マイナス幅が7.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.6(同▲34.3)、製造業▲4.1(同▲16.0)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲40.0(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲24.1(同▲24.0)である。

平成24年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲33.0	▲30.5	▲34.8	▲40.3	▲30.3	▲32.4	▲21.0(▲28.4)
建設	▲16.6	▲16.6	▲17.8	▲23.0	▲16.0	▲27.5	▲24.1(▲24.0)
製造	▲48.1	▲56.5	▲44.0	▲52.1	▲28.0	▲8.3	▲4.1(▲16.0)
卸・小売	▲51.3	▲42.4	▲34.2	▲50.0	▲40.6	▲47.2	▲16.6(▲34.3)
サービス	▲8.3	▲4.5	▲47.6	▲31.5	▲35.0	▲40.0	▲40.0(▲40.0)



【平成24年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.4(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大した。

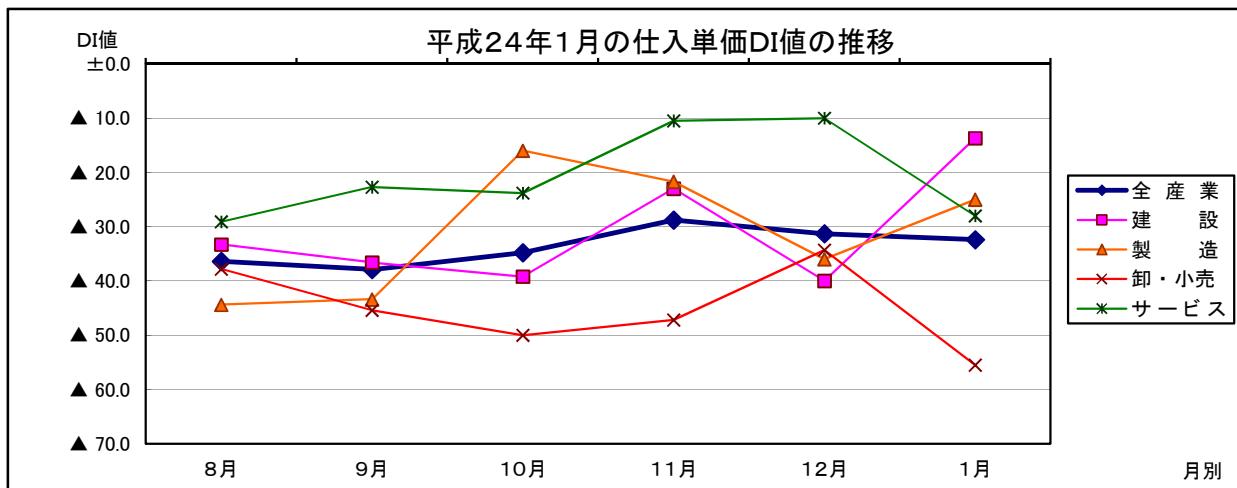
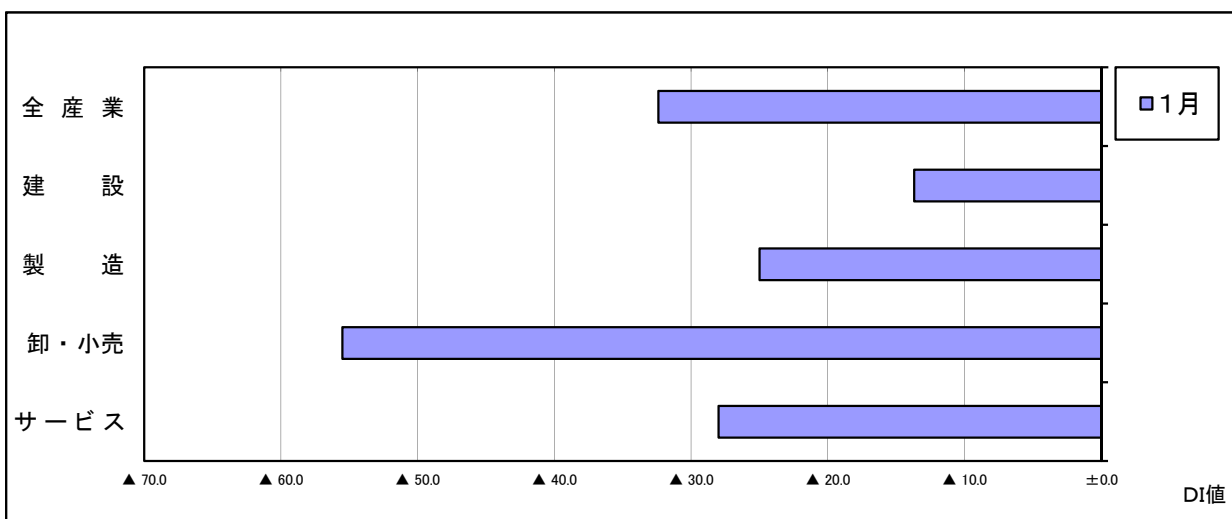
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.7(同▲40.0)、製造業▲25.0(同▲36.0)である。特に、建設業はマイナス幅が26.3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲34.3)、サービス業▲28.0(同▲10.0)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲21.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.0(前月水準▲29.4)となり、マイナス幅が8.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲28.0)、卸小売業▲27.7(同▲40.6)、建設業▲24.1(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲16.0(同▲10.0)である。

平成24年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲36.4	▲37.9	▲34.8	▲28.8	▲31.3	▲32.4	▲21.0(▲29.4)
建設	▲33.3	▲36.6	▲39.2	▲23.0	▲40.0	▲13.7	▲24.1(▲32.0)
製造	▲44.4	▲43.4	▲16.0	▲21.7	▲36.0	▲25.0	▲12.5(▲28.0)
卸・小売	▲37.8	▲45.4	▲50.0	▲47.2	▲34.3	▲55.5	▲27.7(▲40.6)
サービス	▲29.1	▲22.7	▲23.8	▲10.5	▲10.0	▲28.0	▲16.0(▲10.0)



【平成24年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲0.8(前月水準0.9)となり、マイナス幅方向へ▲1.7ポイント拡大した。

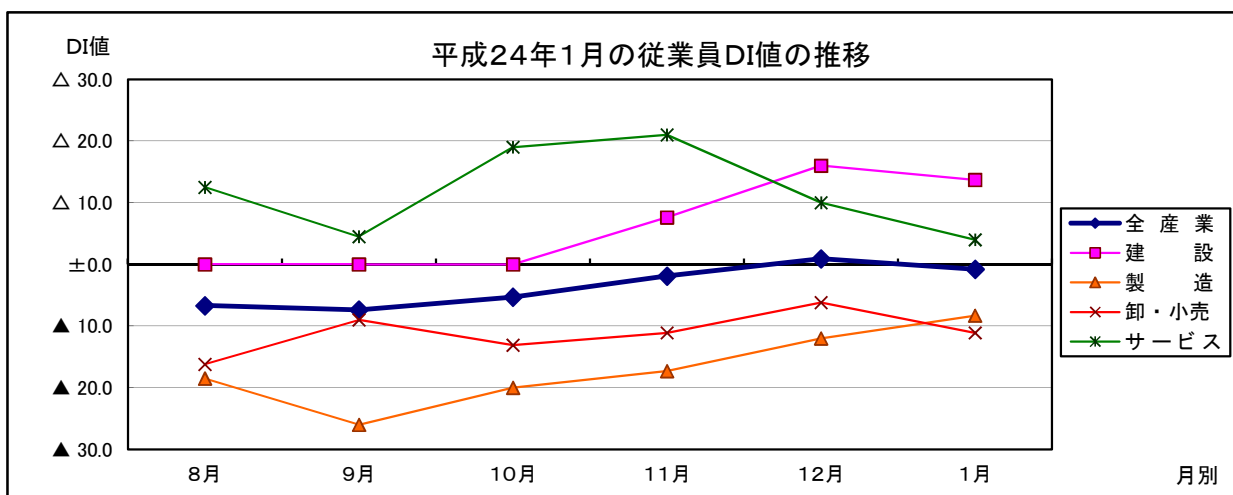
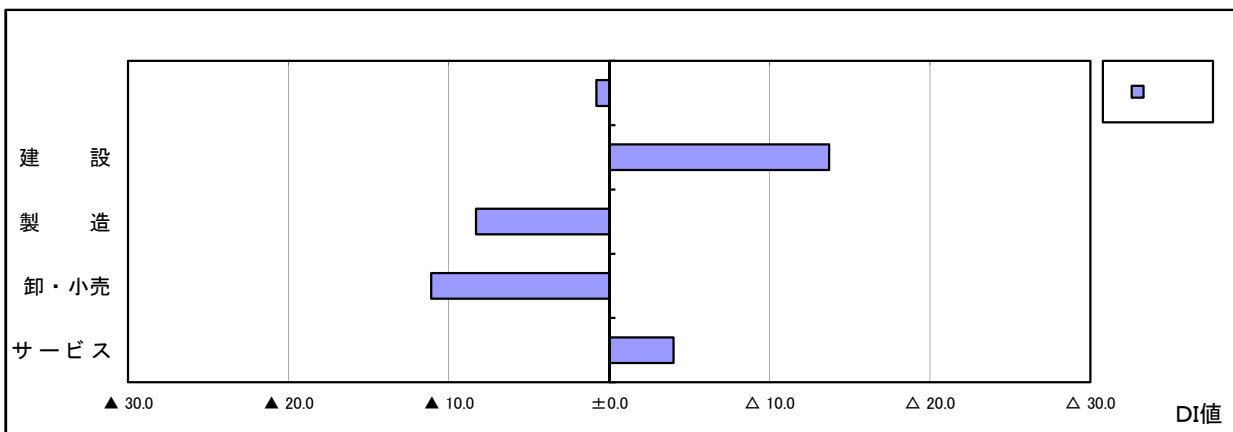
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲8.3(同▲12.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業4.0(同10.0)、建設業13.7(同16.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲11.1(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、0.8(前月水準2.9)となり、プラス幅が▲2.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲4.1(同▲8.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△5.0)、建設業17.2(同20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲8.3(同▲3.1)である。

平成24年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲6.7	▲7.4	▲5.3	▲1.9	△0.9	▲0.8	△0.8(△2.9)
建設	±0.0	±0.0	±0.0	△7.6	△16.0	△13.7	△17.2(△20.0)
製造	▲18.5	▲26.0	▲20.0	▲17.3	▲12.0	▲8.3	▲4.1(▲8.0)
卸・小売	▲16.2	▲9.0	▲13.1	▲11.1	▲6.2	▲11.1	▲8.3(▲3.1)
サービス	△12.5	△4.5	△19.0	△21.0	△10.0	△4.0	±0.0(△5.0)





【平成24年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲13.7)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大した。

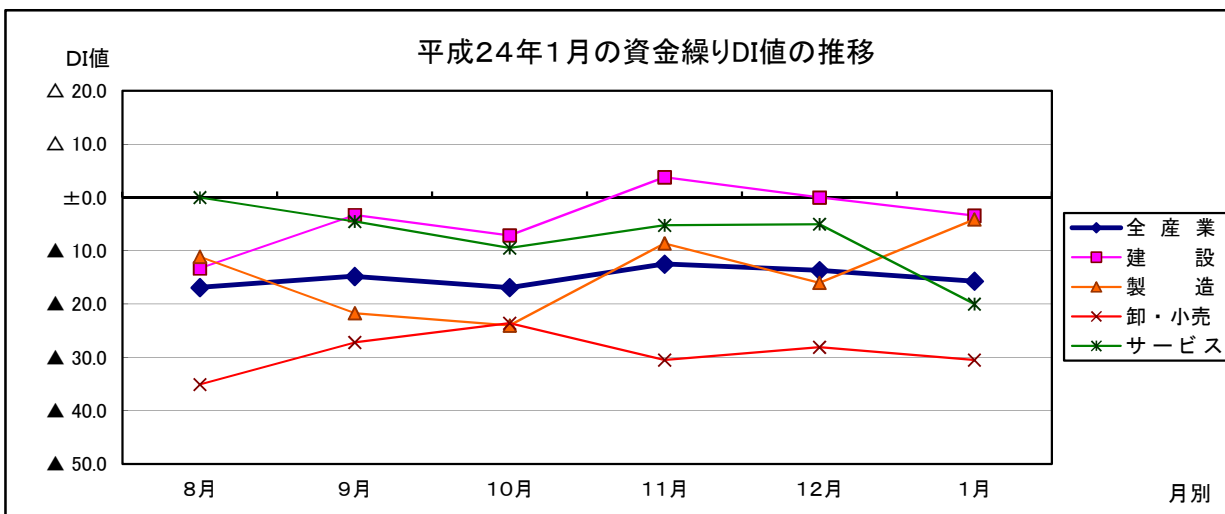
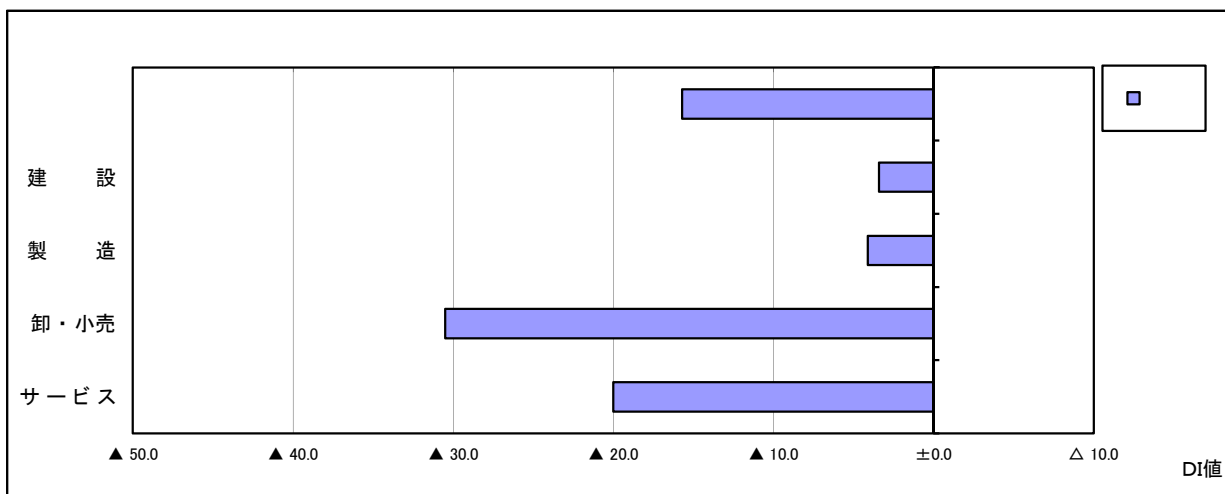
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲4.1(同▲16.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲5.0)、建設業▲3.4(同±0.0)、卸小売業▲30.5(同▲28.1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.2(前月水準▲14.7)となり、マイナス幅が▲4.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲32.0(同▲15.0)、建設業▲13.7(同±0.0)、製造業▲8.3(同▲8.0)である。

平成24年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 8月	9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲16.9	▲14.8	▲16.9	▲12.5	▲13.7	▲15.7	▲19.2(▲14.7)
建設	▲13.3	▲3.3	▲7.1	△3.8	±0.0	▲3.4	▲13.7(±0.0)
製造	▲11.1	▲21.7	▲24.0	▲8.6	▲16.0	▲4.1	▲8.3(▲8.0)
卸・小売	▲35.1	▲27.2	▲23.6	▲30.5	▲28.1	▲30.5	▲22.2(▲31.2)
サービス	±0.0	▲4.5	▲9.5	▲5.2	▲5.0	▲20.0	▲32.0(▲15.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.1	▲ 9.6	▲ 32.4	▲ 21.0	▲ 32.4	▲ 21.0	▲ 0.8	△ 0.8
建設	▲ 10.3	△ 3.4	▲ 27.5	▲ 24.1	▲ 13.7	▲ 24.1	△ 13.7	△ 17.2
製造	▲ 4.1	±0.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 4.1
卸・小売	▲ 55.5	▲ 5.5	▲ 47.2	▲ 16.6	▲ 55.5	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 8.3
サービス	▲ 28.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 16.0	△ 4.0	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.9	▲ 22.8	▲ 15.7	▲ 19.2
建設	▲ 10.3	▲ 10.3	▲ 3.4	▲ 13.7
製造	▲ 16.6	▲ 4.1	▲ 4.1	▲ 8.3
卸・小売	▲ 44.4	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.2
サービス	▲ 40.0	▲ 44.0	▲ 20.0	▲ 32.0

【平成24年1月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	放射能による柏市への不安により、実家近辺へ戻ってくる予定を延期等、様子を見る傾向がみられる。消費税UPによる駆け込み需要が起きるのか？不透明。住宅エコポイントを活用してのリフォームに期待したい。	放射能の影響 消費税 先行き不透明 住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	ここ数年の採算割れに近い発注単価の影響が同業者の廃業等が増加。発受注量を取り立てて多いわけではないのに毎日のようにあちこちから応援要請がくるという異常な状態が続いています	不採算 廃業増加	石工れんがタイルブロック工事業
	原材料の単価に上昇があるものの入荷は順調。一部にタイの洪水により生産がストップして機器入荷の遅れがあった	原材料高騰 タイ洪水 機材入荷遅れ	電気工事業
	公共工事・年度末に向けて多少増加があるも、採算厳しい	公共工事 不採算	土木工事業
	放射能除染関連の工事が柏市では動き始めてきた。しかし福島県など重点地域で本格的に動くのは4月以降と考えられる	放射能除染	塗装工事業
	震災、原発の影響がまだ続いている。材料不足工期遅延による職人不足は年度末まで続きそう。こうきに間に合わせるための職人借り借院と腕の余分な出費が続き採算ベースで割に合わない状況が続いている。放射能の影響で集合住宅の空きが目立つ。また柏での戸建て新築集合住宅建築も減っている。反面都内での建設は増加しており、都内の現場が多い当社は売り上げの増加となっているが材料値上げにより仕入高が上昇したため、業況的には苦しい年となりそう。ゼネコンに工事単価を上げる様に交渉しているが逆に単価下げを強いられている	原発事故の影響 材料不足 人材不足 不採算 放射能の影響 空き室 住宅建築減少 原材料高騰	その他の職別工事業
	直近1週間では気温の低下による都市ガス販売量増加傾向だが月累計では昨年同月と変化なし。3ヶ月間の先行きも変化は見込めない。	天候の影響 先行き不透明	ガス業
	ホットスポットなどで不動産の動きが悪い。除染作業が始まれば仕事が増えるかも	放射能の影響 放射能除染	土木工事業
	年明けから一般客の畳工事の注文が激減しているので業績悪化が深刻。既存のお客様へおアプローチをして畳工事の需要を掘り起こしたい	工事減少 業績悪化	内装工事業
	円高を背景に海外の競合他社が日本国内への攻勢を強めている。また、東京電力による電気料金値上げ発表で、4月より大幅なコスト増が見込まれ諸施策を実施しても大変に厳しい状況が予想される	円高 外資系企業 電気料金値上げ コスト増加	織物業
製造	この先の見通しはよくないが計画達成に各々努力をすることで不変としています	先行き不透明	電子部品・デバイス製造業
	福島原発関連は落ち着いてきたものの、食品業界の放射能測定機器、自治体の放射能対策の問い合わせが増加。	放射能の影響 放射能対策	特殊産業用機械
	景気が改善しない。好転へのきざしが見えない	景気停滞	その他の機械・同部品製造業
	焼酎の売り上げ減少が大きい。特に連続式蒸留焼酎(市場が東北以北なのが原因?)ウイスキー類については、不変。伸び率については鈍化。	売上減少	酒類製造業
	例年年明け～2月は売上はあまり伸びないのでこんなものかなと思っていますが、市の入札は1月はなかなか難しかった。利益がでるのか？と聞きたくなる入札もありました。また、連日小さな地震や目に見えない放射能に翻弄される日々を送っています。震災以降柏から8000人以上の若者たちが引越していったと耳にしています。除染に予算を取られてしまう柏市も新しい開発はほとんど中断されているので、景気の回復も長い時間がかかるような気がします	売上停滞 不採算 放射能の影響 人口減少 放射能除染	印刷業
	受注量やや増加傾向にあり、生産設備投資を行う計画であるが先行きへの不透明感があり不安は持っている	受注量微増 設備投資 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	先行きの不透明感は拭えないが、期待値を込めて今年は明るくしたい。(現実には厳しいかもしれない)	先行き不透明	ガラス・同製品製造業
	年度末にむけ仕事が出てきた。各社取引先全てが動いてきている	年度末 仕事増加	建築用・建設用金属製品製造業
	タイ洪水の特需が、あと数ヶ月続く見込み。	タイ洪水	電子応用装置製造業
	先行きの見通しが見えない状態が続いています	先行き不透明	その他の機械・同部品製造業

【平成24年1月の業種別業界内トピックス】

	1月度は作年並、2月から材料費値上げが有り利益圧迫しそう。原料は輸入されている物が多いが円高の差益は全く還元されていない。	原材料高騰 利益圧迫 円高還元なし	紙製容器製造業
卸小売	業況的には冬物衣料は全体的に20%ダウンは当たり前となっているようだ。昨年末から今月にかけて倒産したメーカーもかなりあった。当社取引先でも1社倒産。噂では1月はかなり出るのではと話題である。冬物やセールは前倒しで12月から入ったところが多く今月は不調。中旬に入り寒さも強くなったがセーター類のみが不足。コートの伸びはいま一つ大口の電気代が大幅に上昇すると節電だけではなく他の経費も切り詰めて行く方向になっていく。冬物が気温の面では恵まれているが購買には結びつかずお客様の節約買い控えは続いている	業況悪化 倒産増加 冬物不調	婦人・子供服小売業
	年末から年明けでケーキやおせち、お歳暮など好調でした。一方1月初商売上はほぼ例年並みでスタートし、天候雪の影響などもあり、予算前年ともに下回って推移しています	電気料値上げ 経費節減 買い控え 年末商戦好調 天候の影響	その他の各種商品小売業 百貨店
	1月度、毎年盛況である2日の初売りは、入店客数は前年を下回ったものの、売上高は買上率、客単価の上昇により前年を上回った。年始からのセールは、昨年のイベント時期とずらした影響から、専門店入店客数は期間中昨対92.0%と大きく下回り、売上高も92.9%という結果であった。12月後半に冬物商戦のピークを迎えたための先食いや、会期が初売り商戦と近かったことから、消費にブレーキがかかった感が強い。セール終了後もOFF率を上げたことや寒気が長引いたことから、セール商材の消化にも繋がった。またプロパー商材も徐々に動きだしていることから、月末に掛けてはプロパー商材に切り換え梅春物の早期実売に結び付けていく。	売上増加 初売り 購買意欲停滞 天候の影響	その他の各種商品小売業
	今後電気代の上昇をどう控えていくのが大切な問題になってきます。商工会議所でも電気代を抑える講演とかを企画したらどうでしょうか？	電気料値上げ	各種食料品小売業
	消費低迷に売上が伸び悩む中、原材料や電気料金の値上げ等が今後重くのしかかってきそうです	消費低迷 原材料高騰 電気料値上げ	菓子・パン小売業
	景気が悪化しているから地域の商業ももろに影響を受けている。国の景気が良くなることを第一に望んでいる	景気悪化	食肉小売業
	前年比で客数売上ともに減少。原因として考えられるのは地域内グループ店では100%となっているので、競合店の影響が大きいと思われる	売上減少 競合店の影響	その他の各種商品小売業
	1月においては中旬までは売上は上向いていましたがそれ以降からは雪の影響もありお客様の足が遠のいた。食肉の価格は去年並みに落ち着いていますが2月からは大分輸入食肉が不足するのではないかと思います。国産も2月は少なくなると聞いています	売上増加 天候の影響 食肉入荷不足	農畜産物・水産物卸売業
	前年に引き続き厳寒の環境から、野菜の入荷減、生産不足などで単価高で推移しています。果実では品目ごとにばらつきがあり、入荷増単価安、後半は減少傾向で取り扱いが厳しい状況にあります。今後も食生活スタイルの変化を観察しながら安心な青果物の販売に努めたい	天候の影響 野菜入荷減少 果実入荷不安定	食料・飲料卸売業
	生コンの売上は一服感もあるうえ、生コンの骨材による構造物に多量の放射能が出たための建設延期などがあり、売上は減少する。産廃系は前年と変わらないと思われるため採算ベースは上がるが損益分岐点を大きく超えるわけでもないと思われる。2～3月は前年比ベースで増収増益になる見込みです	放射能の影響 建設延期	建築材料卸売業
季節労働者を採用した。今期は安心して仕事を任せられそう。ただし原油が高値推移に転向しているので多少でも業況と資金繰りが好転したのに、また我慢が始まるだろう。	季節労働者採用 原油高値 業況好転	燃料小売業	
年度末は仕事量が増加するのが通念であったが、今年は件数が少なく競争が激化し価格の下落につながった	年度末 競争激化	一般機械器具卸売業	
宴会部門は好転しているが居酒屋部門でのフリーのお客様の減少がみられる。今後について料理や店の改装を考える必要を感じている。消費税も10%となるなら外税方式にしてほしいと感じる。	宴会好転 個人客減少 消費税引き上げ	酒場・ビヤホール	
飲食店では中心的な材料が高騰しているがなかなか売値に転嫁できず苦慮している。メディア等で取り上げて頂きお客様への認知を頂きたい	原材料高騰 価格転嫁	食堂・レストラン	

【平成24年1月の業種別業界内トピックス】

サービス	<p>宿泊 稼働の落ちる年末年始にかけての高校サッカーの選手の宿泊が獲得出来た事が大きく、毎年月半ばから動くビジネス需要が今年は早めから動き始め、稼働が高くなるがINETからの予約が増えた為、集客手数料・原価が増え利益を圧迫する。宴会 新年会は昨対で件数は増えるも件当たり人数も小さく厳しい状況が続くと思われる。電気、重油の値上げが心配である。</p>	<p>ネット予約増加 厳しい業況 電気料金値上げ 利益圧迫</p>	<p>ホテル</p>
	<p>宿泊稼働率は横ばいで推移、客室単価はやや持ち直している。宴会は新年会等、件数こそ例年並みに受注しているが、単価減が売上に響いている。</p>	<p>稼働率横ばい 単価減少 売上減少</p>	<p>ホテル</p>
	<p>近隣に大型スーパーが今春オープン。競争激化。取扱商品は競合しないが客の流れが心配です。雪と寒さの関係で来店客数減少。明るいニュースが無いので財布のひもも固い。月末になり新学期用品は好調です</p>	<p>大型スーパー開店 競争激化 来店客数減少 買い控え 新学期商戦</p>	<p>その他の飲食料点小売業</p>
	<p>個人需要は相変わらず海外が好調。法人需要も既に6カ月先まで受注するようになってきた</p>	<p>海外旅行好調 法人需要増加</p>	<p>旅行業</p>
	<p>原発事故の影響が大きいです 放射能汚染に対する風評被害がお客様の購入意欲を低くしています。若い方に特に影響しています。土地の価格も低下しています。早く安全宣言を国県市で出してもらいたい</p>	<p>原発事故の影響 放射能の影響 風評被害 土地価格低下 安全宣言</p>	<p>不動産代理業・仲介業 不動産管理業</p>
	<p>レイソル景気ももう少し続けばと思いましたが。やはり市、会議所が盛り上がる為の工夫をすべきと思う。</p>	<p>レイソル優勝</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>春の賃貸住宅市場も動きが出始めておりますが例年並みの客つきではないかと思えます。駅徒歩圏外の築年数の経った物件の客つきは厳しいと聞いています。</p>	<p>賃貸例年並み 中古住宅減少</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>この景況で進むとIT企業は、倒産の危機を迎える企業が増えると思えます。まずは、大手企業設備投資の縮小・人工単価の低額化・新規開業事業外国人投入（TPP導入により関税非課税）など、ますます悪化するばかり、目標を来年度に向けてどころが、明日に向けてに切り替えなくてはならない状態です。すき間事業を常に検討します。</p>	<p>倒産増加 設備投資縮小 単価低下 状況悪化</p>	<p>ソフトウェア業</p>

### ◎放射能の影響

- 放射能の影響で集合住宅の空きが目だつ。また柏での戸建て新築集合住宅建築も減っている。反面都内での建設は増加しており、都内の現場が多い当社は売上げの増加となっているが材料値上げにより仕入高が上昇したため、業況的には苦しい年となりそう。 その他の職別工事業
- ホットスポットなどで不動産の動きが悪い。除染作業が始まれば仕事が増えるかも 土木工事業
- 福島原発関連は落ち着いてきたものの、食品業界の放射能測定機器、自治体の放射能対策の問い合わせが増加。 特殊産業用機械
- 連日小さな地震や目に見えない放射能に翻弄される日々を送っています。震災以降柏から8000人以上の若者たちが引っ越していったと耳にしています。除染に予算を取られてしまう柏市も新しい開発はほとんど中断されているので、景気の回復も長い時間がかかるような気がします 印刷業
- 生コンの売上は一服感もあるうえ、生コンの骨材による構造物に多量の放射能が出たための建設延期などがあり、売上は減少する。 建築材料卸売業
- 放射能汚染に対する風評被害がお客様の購入意欲を低くしています。若い方に特に影響しています。土地の価格も低下しています。早く安全宣言を国県市で出してもらいたい 不動産管理業

### ◎先行き不透明

- 直近1週間では気温の低下による都市ガス販売量増加傾向だが月累計では昨年同月と変化なし。3ヶ月間の先行きも変化は見込めない。 ガス業
- 受注量やや増加傾向にあり、生産設備投資を行う計画であるが先行きへの不透明感があり不安は持っている 一般産業用機械・装置製造業
- 先行きの見通しが見えない状態が続いています その他の機械・同部品製造業
- 先行きの不透明感は拭えないが、期待値を込めて今年は明るくしたい。(現実には厳しいかもしれない) ガラス・同製品製造業

### ◎電気料値上げ





- 東京電力による電気料金値上げ発表で、4月より大幅なコスト増が見込まれ諸施策を実施しても大変に厳しい状況が予想される 織物業
- 大口の電気代が大幅に上昇すると節電だけではなく他の経費も切り詰めて行く方向になっていく。冬物が気温の面では恵まれているが購買には結びつかずお客様の節約買い控えは続いている その他の各種商品小売業
- 消費低迷に売上が伸び悩む中、原材料や電気料金の値上げ等が今後重くのしかかってきそうです 菓子・パン小売業
- 宴会部門において新年会は昨対で件数は増えるも件当たり人数も小さく厳しい状況が続くと思われる。電気、重油の値上げが心配である。 ホテル











## 平成24年1月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.9に対し、「CCI-LOBO」が▲31.9で、柏の方がマイナス幅が3.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲26.0で、柏の方がマイナス幅が1.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・製造業10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.4に対し、「CCI-LOBO」が▲29.3で、柏のほうマイナス幅が3.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.4に対し、「CCI-LOBO」が▲25.6で、柏の方がマイナス幅が6.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が0.8に対し、「CCI-LOBO」が▲2.2で、柏の方がマイナス幅が1.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲20.4で、柏の方がマイナス幅が4.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。











# 平成24年1月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.9	 10.3	 16.6	 44.4	 40.0
CCI LOBO	 31.9	 29.0	 25.6	 40.3	 36.2


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.1	 10.3	 4.1	 55.5	 28.0
CCI LOBO	 26.0	 24.3	 19.6	 31.7	 29.2


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.4	 27.5	 8.3	 47.2	 40.0
CCI LOBO	 29.3	 31.6	 24.0	 32.6	 34.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.4	 13.7	 25.0	 55.5	 28.0
CCI LOBO	 25.6	 31.4	 30.4	 17.3	 26.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 0.8	 13.7	 8.3	 11.1	 4.0
CCI LOBO	 2.2	 4.3	 5.5	 0.8	 1.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 3.4	 4.1	 30.5	 20.0
CCI LOBO	 20.4	 24.5	 16.2	 23.0	 23.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目



# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成24年1月18日～24日

調査対象：全国の415商工会議所が2796業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは若干改善するも先行きは力強さに欠ける**

1月の全産業合計の業況DIは、31.9と、前月から+3.0ポイント改善した。復興需要を見据え、建築資材の取引が活発な卸売業の業況が大幅回復したことが要因。しかし、超円高により、輸出の減少や取引先の海外移転加速に伴う受注の減少などの悪影響が及んでおり、企業経営は厳しい状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが31.4(今月比+0.5ポイント)と、ほぼ横ばいとなる見通し。今後、第二次補正予算の本格執行が見込まれるが、地域経済への波及効果がまだ弱く、大幅な業況改善にはつながらないとの声が多い。また、超円高や海外経済の動向、先行き不安に起因する消費マインドの冷え込みなど、懸念材料が多いことから、先行き見通しに対する慎重な見方が根強い。

産業別にみると、業況DIは、製造業はほぼ横ばいとな

ったものの、他の4業種はマインナス幅が縮小。特に、卸売業は、復興需要を見据え、建築資材の取引が増加していることから、業況が大幅に改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅エコポイント制度を利用したりリフォーム工事の受注が増加」「一般工事業」、「復旧・復興工事の本格化に伴い、職人不足による人件費の上昇が顕著」「一般工事業」、「国および県で防災関連工事に多額の予算が計上されたため、公共工事の受注増加を期待」「一般工事業」

【製造業】「円高の影響で、親企業の米国・欧州向け輸出が落ち込んでいるため、自社の受注も減少」「自動車部品製造業」、「超円高により、韓国・中国企業との価格競争が激しく、受注獲得が困難」「船舶製造・修理業」、「円高により欧州からの輸入品が値下がりしており、価格面で対抗できない」「製材・木製品製造業」産業別にみると、業況DIは、製造業、小売業

はマインナス幅が縮小したものの、サービス業はほぼ横ばい、建設業、卸売業は拡大した。

【卸売業】「復興需要の本格化に伴う木材、木製品の売上増加が見込まれる」「建築材料卸売業」、「地元企業が集まり中国に合弁会社を設立。その会社を拠点に積極的な販路を拡大していることから、業況が上向いている」「ネジ卸売業」、「国内の売上が落ち込んでいるため、イギリスをはじめ、欧州での販路開拓を進めている」「コーヒー豆卸売業」

【小売業】「厳しい寒さが続き、コートやマフラー等の防寒衣料の売上が好調」「商店街」、「帰省客が例年より多く、食料品の売上が伸びた」「総合スーパー」、「欧州経済の動向や厳しい雇用情勢等、先行きの不安材料が多く、個人消費が冷え込んでいる。そのため、来客数・売上とも落ち込んでいる」「百貨店」

【サービス業】「円高の影響を受けている主要取引先が、経費節減のため、設備投資を抑制。その影響で、自社の受注が落ち込んでいる」「ソフ

トウェア業)、「円高の影響で貨物取扱量が減少。加えて、軽油価格が高止まりする中、イラン情勢の緊迫化により、今後さらなる価格上昇が懸念される」「運送業」、「復旧・復興関連の仕事で来訪するビジネス客の宿泊が好調」(旅館)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
見通し	▲31.4	▲32.5	▲24.0	▲28.5	▲40.4	▲30.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI